

「選択～プッタパルティのアヴァターか、ムッデナハッリの詐欺師か」

ムッデナハッリの霊媒師とその仲間たちの分析

善が来ることは避けられない。それを来たらせる者は祝福されている。
悪が来ることは避けられない。それを来たらせる者は「災い」である。

—イエスの言葉（出典不明）—

他の人を傷つけたり、だましたり、危害を加えたりしてはならない。

—サティヤ サイ ババ、1997年—

霊的コミュニティを襲った大惨事について客観的に分析することは、非常に困難です。私たちが知っている最高の科学を用いてそのトピックを論じているにも関わらず、その状況を理解することは簡単ではありません。そうではありますが、私たちは、真実を探し求める何千人もの善人たちが漂流しているのを見逃すことはできません。

しかし、もしサティヤ サイ ババの教えの中に形而上学的真理を見い出さないのであれば、詐欺に騙されないよう注意しながらよそ見をするのも一理あるという考えを、私たちは受け入れなければなりません。

個人的には、私がムッデナハッリの件に関心を示すことはなかったでしょう。内なる真我を促し、詐欺に対抗することを私が厳粛に約束した、偉大なる師の栄誉が損なわれなかったなら。

インドのテレビ局の報道番組を視聴したことから分析は始まります。この番組は、サイ ババの元学生が師の真似をし、サティヤ サイがプッタパルティで行ったことをムッデナハッリで再現し、そこで運営されている師の学校全てを私物化することをどのようにして思いついたかを指摘しています。続く映像は、彼が何かに「憑依」されていると私たちが疑うほど極端になった、その学生の偽装と欺瞞を示しています。

インターネット上に投稿されたテレビ番組と映像は、いくつかの考察へと導きます。

- ムッデナハッリの霊媒師は善人か、それとも悪人なのか？
- この道化芝居を支えている共犯者たちは何者なのか？

もしこの霊媒師が善人であるならば、彼には「妄想型統合失調症」として知られている病理があると認識しなければなりません。もしその反対に、彼が悪人であるのなら、彼は詐欺師であり、実際にはそうではない何かを主張する便乗者グループの手の中にある操り人形と考えることができます。

それゆえ、ムッデナハッリの男性は病人または悪党です。しかし、いずれにしても、彼は「詐欺師」であり続けます。

神の御名の乱用、宣伝布教、金銭の要求は、疑いや恐れや奴隷化を、とりわけ「知識の欠如」である「無知」のしるしなので、キリスト教徒にとってのキリストのように、サイ ババが本当に神我の象徴であると信じる人々は誰でも、偽証者、サイ ババの「真似」をする「詐欺師」、偽物に忠誠を誓うよう「誘導する」人、宣伝布教に「駆り立てる」人、金銭の要求を後押しする人を容認することはできません。その取り組みすべては、本物のサイ ババが常に「厳しく」「禁じ」ていたものです。

自分は霊に、天使に、あるいは悪魔に憑依されていると主張したり、霊媒師のように振舞ったりする人々は、

世界中に何百人もいます。彼らは自分が何らかの見知らぬ存在に憑依されていると感じるので、科学者はこの種の人々を「妄想型統合失調症」と見なします。したがって、彼らは治療される必要があり、適切な社会的援助を受ける必要がある人々なのです。

憑依の病理学

もしムッデナハッリの男性が善人であるのなら（私はあえて繰り返しますが）、彼は病人と見なされなければなりません。これについてはっきりさせましょう。

「妄想型統合失調症」と呼ばれる精神病は、ムッデナハッリだけではなく、世界のあらゆる国々で見出されます。イタリアでは、悪魔的幻想の中に精神的に弱い人々（学校を卒業していようがまいが）を引きずり込み、聖母マリアが見えると主張している人々がいます。最近では、聖母マリアと話をすると主張するカトリック司祭、ミステラ神父の事例があります。（Rai Tv, Italian Stories 2018年2月22日）

この司祭はたくさんの少女を誘拐し、自分を「聖なる父」と呼ばせ、ムッデナハッリの霊媒師のように、「小さなナザレ」の建築を始めました。それはすぐに市当局によって阻止されました。警察による捜査が続いており、その一方で、カトリック教会は彼に対して非常に厳しい措置を講じました。

人々の弱さを悪用しているのは、ミステラ氏だけではありません。聖職者や修道士たちに黙認されていますが、ある年老いたキリスト教徒は、自分は聖母マリアと話していると主張し、人々の純朴さと寛容さを悪用しています。

もう一つの事例では、逮捕令状（Tv Fourth Grade 2018年3月4日）が出ています。ブリンディジ地区のモンシニョール タルッチ元司教に支援されながら、20年にわたってマリアが見えると称した活動を行っていたパオロ カタンザーロは、信奉者たちから大金を奪いました。

時系列的に最新の事例は、「十三番目の使徒」であると自称する男性で、300人の信奉者がいました。しかしその実態は、ドロレス、マリア アスンタ、アンジェリナという名を持ち、躊躇することなく警察に告発されなければならない多数の詐欺師だったのです。

詐欺師と弱い犠牲者たちは、ムッデナハッリだけに見られるものではありません。世界のあらゆる国々で見られます。

イタリアには、催眠や幻覚物質を使用したり、家族から引き離したりして、300万人の人々を支配している社会宗教的セクト（カルト団体）が3200もあります。そのカルト団体はあなたを隔離し、あなたを喜ばせ、あなたが神に特別扱いをされていると感じさせ、あなたを終わらせます。ムッデナハッリグループが使っている戦術およびツールは、ダイアナティックス（サイエントロジー教会）のような西洋の社会宗教的カルト団体のものと同一であり、その唯一の目的は、彼らの賽銭箱をいっぱいにすることです。

詐欺師とカルト団体の目的は、常に「金集め」です。（スピリチュアリティという見せかけの奥に隠された）金集めがあるかどうかは、その人物が善人であるか冷酷な詐欺師であるかを示す重要な指標です。

サイ ババは、しばしばこのように語りました。

「私の名前でお金を集めている信奉者のグループがあります。私は、これらの人々が誰であろうとも、彼らを叱り、彼らから離れていることをあなた方に求めます。」（1962年11月25日の御講話）

「私の夢の中にサイババが現れて、あなたから集金するよう私に命じました、と言う人々がいます。そのような詐欺師たちに耳を傾けてはなりません。彼らにふさわしい方法で、彼らを叱責しなければなりません。」

「多くの人々が、さまざまな場所で、さまざまな目的のために、私の名前を使ってお金を集めています。これらの要求に屈してはなりません。このような活動を促してはなりません。これらはすべて私が禁じていることです。」

「憑依」とは、靈魂に棲みつかれていると見なされる人物の精神物理的状态であると、科学は説明しています。近代では「憑依された人」とは、実は「統合失調症」やその他の「精神異常」の犠牲者であることが判明しているため、前述したキリスト教団体によって「憑依」への信仰は薄れてきています。

病の初期には、憑依された人が示す症状ははっきりしません。患者は自分が靈魂や天使を見たり話したりしていると空想しますが、徐々に精神状態は悪化します。患者は、何年も自分が望んでいた役割になりきり、幻覚中に自分が対話している靈魂に憑依されたと感じます。ムッデナハッリの霊媒師の症状が病理学どおりに進行していることが、これを証明しています。

ムッデナハッリの言動は、下手で見るに堪えず、滑稽で、非現実的な方法で行われます。ある信奉者が高級車のドアを開け、サイ ババが出て来て椅子に座ることを、そこにいる人々に知らせます。当然ながら、その椅子は空席のままです。ムッデナハッリの霊媒師の心の中ですべてのことが行われます。彼だけがサイ ババの幽霊（または微細体）を「見る」のです。霊媒師のみにサイ ババが話していることが聞こえます。他の人にはさっぱり何も見えないし聞こえません。その後、霊媒師は、その瞬間に彼の心が思いついたことを人々に伝えます。

サイ ババは探求者たちに警告する機会を決して逃しませんでした。

「私が、霊媒師やその他の仲介者を通じて話をするというニュースを広めている人々がいます。これらの人々やその使者や仲介者はすべて『ペテン師』を扱うように扱いなさい。もしそのように扱わないのであれば、あなたも彼らの詐欺の共犯者となります。」

霊媒師に従う人々は、悟りを得た哲学者、シャンカラが言ったことを忘れてしまっています。ムッデナハッリで起こっているような、自分がいわゆる微細体を崇めていることにある日誰かが気付くだろう、と予測して、シャンカラは「ヴィヴェーカ チューダーマニ」（識別力の宝玉）を記しました。

サイ ババは立証しました。

「微細体は神なる主になり得ません。なぜならそれは、無知（グリッティ）の結果であり、心（マインド）の発明品である、その他の微細体と混ざり合っているからです。」

ムッデナハッリの追従者たちは、霊媒師についてサイ ババが語ったことを忘れてしまったように見えます。

「彼らは低迷し、弱く、悪魔に取りつかれた人間の媒体であり、見捨てなければなりません。なぜなら彼らは弱い人々を騙そうとしているからです。」

「もし誰かがあなたに、これをしろ、あれをしろというサイ ババの声が自分には聞こえると語るのであれば、その人と距離を置きなさい。なぜならあなたは幻想の中にいる人と対峙しているからです。私には、あなたに語りかける他の方法があるのです。私の名は「サティヤ サイ」です。それは、真理を固く守る者という意味です。私は「シルディ サイ ババ」として来ました。そして今、私はサティヤ サイ ババとして戻ってきています。サイは順番に降臨するので、この後はマイソール生まれの「プレーマ サイ」という名の者が来るだけです。」（サティヤ サイ スピークス 1974年 160頁※出典不明）

「ある人物を通じてサイ ババが話をする다고信じている人々がいます。彼らは愚かです！それはすべて、心が病んでいる人々にふさわしい言動です。彼らの餌食になってはいけません。詐欺師やその便乗者たちに惑わされてはなりません。彼らは、神の中に兄弟姉妹が置かれているという信仰を台無しにします。」（1964年 10月 15日の御講話）

共犯者たち

このような悪魔のような詐欺を実行する霊媒師の背後には誰が座っているのでしょうか？誰が糸を引いているのでしょうか？

ムッデナハッリの霊媒師は人形のように誰かに操られています。背後にいる人物は彼の精神疾患を利用し、非

常に危険な展開へと導く不穏な状況へと、彼を押しやっています。

ムッデナハッリの詐欺師が最初に行った犯罪は「身元詐称」です。「身元詐称」は、別の人物であるように装う人々が犯す犯罪行為です。多くの場合、金銭もしくは便宜を不正に入手することが目的です。それゆえ、刑法上の罪となります。

なぜ、ムッデナハッリの憑依された人物が、インド中をさまよって歩く聖者の一人にならずに、サイ ババの真似をすることを選んだのでしょうか？

ムッデナハッリの詐欺師がサイ ババの御名と実在を侵害せず、東洋に居住する多くのグルの一人となっていたら、彼は誰からも完全に相手にされなかったでしょう。その反対に、彼はサイ ババの真似をすることを選びました。

その説明はシンプルで、精神医学の領域内に収まります。ムッデナハッリの憑依された人物は、プッタパルティにあるサイ ババの学校で学んでおり、「真似するためのモデルは主なるサイ」だったのです。

サイ ババが彼と会ったとき、ババは即座に彼を悪魔的な存在と名付けました。古の哲学者たちはこれを、重いカルマに非常に悪い影響を受けた人、「アースラ」、神に反する者、神を認めない者と呼びました。彼らは、悪魔的な悪い存在として知られており、そのカルマは天界の柱を震撼させました。

元ヴェローナ大学教育学教授であった、フランシスコ会のアルド ベルガマスキ神父は、これらの人々は、次のようであると述べました。「自分が無能と見なす社会に対して自分の病気を示す勇気を持たず、大学教授の地位を得る準備もせずに、聖者や霊的導師や聖母マリアになりきり、自分が演じたい聖者を真似して騙されやすい人々の世界にメッセージを広め始めるテロリストたち」

要するに、憑依された人々はそれぞれ、十分な知的能力、霊的能力を持ち合わせておらず、偉大な魂の真似をする以外に選択肢がないのです。

ムッデナハッリの霊媒師の信奉者たちは、彼を蝕んでいる病理と、彼を支援してきた四、五人の便乗者たちによって実行されている悪だくみに気付いていないのでしょうか？

ムッデナハッリの憑依された人物には、自分自身を治療する機会があったでしょう。もし、精神障害による未実現の欲望を満たすだけのために、彼を促して妄想の中に留まらせた四、五人の悪党たちに見い出されていなかったら。

病人には、その人に貼りついているカルマという病気に対する責任はありませんが、彼は神秘主義者たちにはっきりと見える看板を背負っています。しかし、ユーチューブに投稿された映像が示しているように、その霊媒師にも悪意があり、自ら進んで純朴な人々を騙すトリックを使っているのであれば、本当の責任は、スピリチュアリティとは何の関係もない個人的利益を得るために彼の病理を利用している共犯者たちにあります。

問題の核心と悪の根源はここにあるのです。

最初に霊媒師と会った人々は、サイ ババが生きていたときに世俗的な目標を達成していなかった人たちでした。サイ ババは次のように語って、長い間、自分のアシュラムの中に彼らをとどめておきました。

「どこか他の場所で他の人々に害を及ぼすことを回避するために、私は彼らを私の近くに置いているのです。」

おそらくは、意識の低さゆえに師の組織の中で適切な居場所が見つからなかった彼らは、サイ ババがこの世を去るや否や、躊躇することなく、満たされなかった己のエゴを満足させたのです。

当時、彼らは躊躇することなく、主とその御教えに背いたのです。ユダがしたように。2000年の講話の中で、サイ ババはこのように語っています。

「イエスは一人のユダだけに裏切られました。私は一人ではなく、数千人のユダに裏切られるでしょう。」

主の予言は、ムッデナハッリで実現したのです。

ムッデナハッリの詐欺師とその共犯者たちは、彼らの抽象的な計画を実行に移すために、たくさんのお金を持

っていなければなりません。信奉者たちの自発的な寄付だけでは不十分であるため、インド警察はその資金源を把握しようとしています。

その一方で、信奉者たちは皆、お金を集めるための戸別訪問や布教活動に忙しくしています。かつてはたくさんの霊媒師や神秘主義家がいた国、イタリアで、この人々は、家族全体を経済的、社会的困難に陥らせる、格好のゲームをしています。その間に、ナイジェリアでは純朴で弱い人々を騙しているという嫌疑で、詐欺グループのメンバーが警察に捕まり、国外追放となりました。

まとめると、ムッデナハッリの男性のせん妄状態を利用して、何人かの便乗者たちと投資家たちが彼の前にひれ伏し、男性は寄付金を集める道化師グルと化しているということです。

インド警察は、イタリアにもある刑法に由来する犯罪行為があると疑っています。

- 一般的信用度の乱用（第 611 条）
- 身元詐称（第 4949 条）
- 詐欺（第 640 条）
- 無力な人々あるいは精神的に不安定な人々の不正利用（第 643 条）
- 不適切な集金
 - その他

客観的かつ合理的に、ムッデナハッリの男性が、心のマニピュレーター（操作する人）か、トリックスター（ペテン師）か、単なる病人か、憑依された人か、それらすべてが組み合わさっているのかどうかを正確に知ることは不可能です。医師、社会学者、ブラーミンのチームが彼を注意深く調べなければなりません。しかし、インドのような国では、これが妥当であるとは考えられていません。インドでは、自分がそうではない者、決してなれないであろう者になることを祈願しながら、大勢のせっかちな人々が歩き回っています。

真のサイ ババの教えと実在に忠実に従ってきた霊的求道者は、三つのことをムッデナハッリの信奉者たちに尋ねることができます。

1. 死ぬ間際にあなたの側にいて欲しいのは、ムッデナハッリの詐欺師と真の師であるサティヤ サイ ババのどちらですか？
2. あなたは自分の永遠を、悟りに達した師に託しますか？それとも何かに憑依された人に託しますか？
3. ムッデナハッリの霊媒師は、超越的実在を体験したと思いますか？彼は至高の英知に到達したのですか？

もしそうであれば、彼は道化師のように振舞わなかったでしょう。もし彼が至高の体験をしなかったのであれば、彼に英知はありません。

彼は霊性求道者に何を提供することができますか？

サイ ババの教えと実在に忠実な求道者たちは、学問的に知的で教育のある人々が、幻視者や被憑依者に騙されているのを見て、当惑しています。しかし、サイ ババが言ったとおり、

「人間の心（マインド）は動くものすべてに噛みつこうとする蛇のようなもので、あえて罠にかかろうとするのです。」

今日、その罠はムッデナハッリと呼ばれています。しかし、それはたくさんある中の一つであり、1965 年 3 月 26 日に行われたサイ ババの発言の中にも含まれています。

「誰かがあなたのところへ来て『サティヤ サイ ババが彼の代理人となるよう私に指示しました』と言っても、信じてはいけません。夢の中でも、目覚めている間でも、このようなことをする権限を、私が誰かに与えることはありません。これらの人々は詐欺師です。慈悲を持たずに、彼らを詐欺師として扱いなさい。」

ムッデナハッリの茶番劇が計画的偽装であることを理解するためには、他に何が必要でしょうか？

2 千年前、ゴータマ ブッダは素朴な人々に靈魂と幽霊を信じさせました。なぜならこの方が彼らは幸福に感じ

たからです。しかし今、私たちは第3の千年紀にいます。ムッデナハッリでは、その深刻さに気付いてさえいないという深刻な危険にさらされながら、偉大な霊性の師の評判や、自分たちの家族の尊厳や、何千人もの求道者たちの霊的探究が危機に陥ることを躊躇しない便乗者たちが共謀して、重大な「霊的偽装」だけでなく、「金銭的詐欺」や、「社会的亀裂」があることを、分別のある人々は理解することができます。

ドン ミヌテッラが告発されたテレビ番組(Rai Tv, Italian Stories 2018年2月12日)でも、同様の事例が論じられ、次のような結論に至りました。

- このように振舞う人々を、信頼できる人々と言うことはできない。
- 名声を自慢する人は正直ではない。
- 私たちを自分が愛する人（親、兄弟、妻、子ども）から遠ざけようとする人々は悪党である。
- 知的で尊敬されている専門家たちが、これらの詐欺師の手に落ちるのは、驚くべきことである。

これらの悪漢たちは弱い人々から盗んでおり、このような悪党たちを賞賛する人々は誰であろうと、自分自身の知能を失ってしまっているに違いないと、ブルーノ ファザーニ神父は結論付けました。

この罠に陥る人は誰でも、保健当局に助けを求めるだけの常識を最低限持っていなければなりません。

現地での転落

サティヤ サイ ババの真の帰依者たちが現地に行くのは、主が実在すると主張するためでも、形而上学的な真理のためでもありません。そのどちらも立証する必要はないものです。理由は別にあります。

彼らが現地に行くのは、容易に霊性を獲得できることに目がくらみ、たちの悪い人々に騙された探求者であるからです。

彼らが熱望する解脱から、美しい心を持つ人々が離れて行っているという相応の確信があるので、彼らはそうするのです。

何の非もない探求者たち全員が、知識のない不道德な人々によって霊的に虐殺されることを恐れて、彼らはそうするのです。

憑依された者の愚行とその共犯者たちの拝金主義を理解する機会を霊性探求者たちに与えることができるように、彼らはそうするのです。

彼らがそうするのは、ムッデナハッリで一人の道化師もしくは病人が、世界中に散在する数百万人のサイの帰依者たちの信仰心をもてあそんでいるからです。

何人かの探求者たちが霊性の大学から霊性の幼稚園へと移るのを見て、苦々しく思っているからです。

形而上学的な真理を探究する人々すべてに敬意を抱いているがために、彼らは最終的にその土俵の中に足を踏み入れます。

正しく行動し、悪意はないということを心底確信して、善意ゆえにこの詐欺に加わった人々には、自分がはまってしまった騙しの手口に気付く機会があるでしょう。サイ ババとその帰依者たちが両手を広げて待っているのは、そのような人々です。

サイ ババは言いました。「あなたが自分の負の側面を克服したら、再び私の源へと戻ってくるでしょう。」

光陰矢の如し

悪いカルマが蒔かれましたが、まだ発芽していません。ムッデナハッリの欺瞞に加わった人は深刻な危険に向かって走っています。彼の手にはドラッグがあり、偽のグルを受け入れることによってその毒を飲むか、中毒物質を放り出して善人に戻るかを、今すぐに決めなければなりません。

ムッデナハッリの罠は、世俗的な観点、霊的な観点のどちらにおいても、時限爆弾なのです。

ムッデナハッリが詐欺であることについては、疑いの余地はありません。もしそれが詐欺であるのなら、それはインチキです。もしそれがインチキであるのなら、それを支持する人々あるいはそれに共感する人々は共犯です。

「それでもやはり」、各人が自分の心理と意識状態に最も適した選択をしなければなりません。

まず第一に、サイ ババを師として選んだ人々は、彼の指示に従おうと決意し、即座にペテンから距離を置くことによって、形而上学的な真理を守ろうとします。

サイ ババは言いました。

「他人にできる最高の奉仕は、究極の真理である真我の存在を説明することです」

真理は真理です：あなたがそれを受け入れて、それに到達するか。それともそれを拒絶して、それを失うか、のどちらかです。

ムッデナハッリは「サイ ババが提案した霊的探究とは何の関係もない」劇場型のイリュージョン（錯覚）のようなものです。

ムッデナハッリの詐称者に従う人々の多くは、偽善という見せかけの背後に隠れようとして、サイ ババの形而上学的存在を信仰する探求者たちが、慈悲深く、寛容で、愛情深いことを期待します。しかし彼らは 1965 年 3 月 26 日に主ご自身が「不正を容認せず、偽りを拒み、詐欺師には無慈悲に接するよう」教えたことを忘れていきます。

「神は何でもすることができます」と述べ、ムッデナハッリの虚偽の建物の裏に隠れてしまう信奉者もいます。もし神が真理であり善であるのなら、探求者たちの形而上学的目標から彼らを容赦なく遠ざけている、偽りの邪な建造物の背後に隠れるはずがありません。

ある建築家が午前中にとてつもない宮殿を建て、夕方にそれを壊したら、人はどのように思うでしょうか？

観察されたすべてのことから、外部にいる観客たちは、ドイツの哲学者であるフリードリヒ ニーチェの言葉を分かち合うことしかできません。

「人々は自分の幻想が破壊されるのを見たくないため、真実を聞きたがらない。」

サイ ババは完全に違うことを教えてきました。

彼は、子供や夫婦にトラブルをもたらしませんでした。

彼は、家族に経済的な問題をもたらしませんでした。

彼はムッデナハッリの信奉者たちのように、幻想を奨励しませんでした。

彼の目的は、すべての人を真理の探求者へと変容させることでした。

詐欺の中にどんな真理を見いだすことができるのでしょうか？

行き当たりばったりのムッデナハッリのドラマは、詐欺と嘘とごまかしの上にあります。

サイ ババはよくこう語ったものです。

「人は名声、富、成功、そして権力など、さまざまな理由によって他の人々を選び、己の尊厳と地位を放棄します。しかし、主ご自身のために主に全託するのを選ぶことはめったにありません。」(ギター ヴァーヒニー 8 頁)

現在においては、特定のカテゴリーに属する人々が、簡単にそして素朴に全託する代わりに、詐欺に引っ掛かると言えます。

主は常に詐欺や強欲や盗用や虚飾を正そうとしてきました。

主は常に、悪魔的な性質を天使のような存在にしようと努力しています。

主は決して、ごまかしや詐欺や物真似や霊媒能力を信用しませんでした。

サイ ババは霊性求道者たちの解脱を促進するために降臨しましたが、ムッデナハッリ グループの信者たちは

そのプロセスを無効にするようなことばかりをやっています。

主なるサイは、重大な選択をするよう決意しました。これは今もお進中であり、まだ終わっていません。今までどおり、将来のプレーマ サイを探すことも問題となっています。現時点で2人のプレーマ サイが提案されていますが、そのうちの1人は確実に偽物です。本人は幼くて何もわからないかもしれませんが。

誰かが主張していることが、どちらもそうではないということを、サイ ババが私たちの多くに語ったことに基づいて、私たちは合理的に信じることができます。しかし私たちは将来、これについて話すようになるでしょう。

その人の意識状態との関連で、悟りを得た主と一緒にいるか、もしくは偽物の奇怪なコピーと一緒にいるかは、当然ながら誰もが自由に選ぶことができます。

いったん選択をしたならば、その人は自分が務めている役割と整合性のある威厳も保たなければなりません。

この分析を結論付けましょう。サイ ババの物理的実体とその教えを信じている探求者たち全員に、病のことを「忘れて」しまうようにムッデナハッリの件を忘れ、ムッデナハッリの信奉者たちを裁かずに「無視する」よう求めるのが賢明です。

兄弟愛からの警告が行われれば、その船員たちは嵐のような運命とは縁を切るに違いありません。

非真より真実へと導きたまえ

暗闇から光明へと導きたまえ

死を超えて不滅へと導きたまえ

オーム、平安、平安、平安あれ



ジャンカルロ ロザーティ博士は、複数の専門分野を持つ医師であり、霊性研究者である。

彼はアトヴァイタ ヴェーダーンタとサティヤ サイ ババに関して

50冊以上の書籍を執筆している。彼は5年間イタリアのSSIO会長を務めた。



音楽：「インフィニティ」マハンタ ダース作曲

「アサトマー」声：サティヤ サイ ババ／編曲：ガブリエル デュクロ

インストルメンタル バジャンおよびビデオ編集：マリア クリスティーナ ツオルチ